

5月の養鶏メモ

初夏の鶏管理について

5月は快晴の日が続く鶏にとっては快適の時期ですが、季節的には梅雨期を迎えること、産卵鶏では産み疲れ、就巢、雛では大雛管理という、いろいろ注意を払わなければならない月です。従って第1に成鶏、雛に限らず季節的に注意をしなければならない点は、鶏舎の排水、殺虫剤の散布、附属器具の水消毒、鶏舎の通風換気をはかること。

敷藁等を交換し、出来る限り衛生的にすること、飼料置場の消毒乾燥を図ることが必要である。

第2に産卵鶏は3月から4月にかけて盛んに産卵を続けて来たので、その間飼料又は栄養分が不足したような場合、5月にすでに産み疲れが来て休産するものが出て来るので産卵状況、鶏の体重、飼料の摂取状況等を注意し、飼料の質、量特にビタミンや無機質が不足しないように注意する必要がある。緑餌は不足しないように30~50gを給与する。又就巢する鶏が出た場合は、強度なもの、何回も就巢する傾向のあるものは淘汰し、軽度なものはケージに入れるか又は飼養場所を頻繁に変えるかして離巢を図ってもよい。又鶏舎を明るくすることも必要である。

第3に中、大雛の管理は、日令によって適切な管理をすることは勿論のことであるが、特に注意をしなければならない点は発育状態と衛生であり、発育は日令に応じた体重があり、健康的であることが必

要で密餌、換気不良等によるループ等の疾病、悪癖等の発生を未然に防がなければならない。又鶏痘の予防も5月中旬以降に必ず行なう必要がある。

次に環境を変える場合には、コクシジウム予防薬を与えながら行なうことも必要である。

なお、あまり極端に性成熟が早く、体が出来ないうちに産卵を開始するおそれのある場合は飼料中の蛋白質を減ずるため、1割位殻類を増すか又は環境を変える方法等を取り、抑制をしても差支えない。又産卵開始後ケージ・パタリーで飼育する場合は、産卵開始より約40日前に移動すること。遅れた場合は産卵に悪影響があり注意する必要がある。若し万一遅れて産卵に悪影響があった場合は早朝点灯を実施して快復を図ることもよい。